

7-4

演題	『住民による住民のつながり』のサポート
副題	～立ち上げから卒業まで～

自主活動支援
つながり作り

法人名	社会福祉法人 中心会
施設名	えびな南高齢者施設

発表者名 (職種)	半澤 真由美 介護支援専門員	都道府県	神奈川県
共同発表者	見渡 忠浩	住所	海老名市杉久保南 3-31-6
共同発表者		TEL	046-238-7681
共同発表者		FAX	046-238-7682
共同発表者		メールアドレス	minami-hk-cm@chusinkai.jp
共同発表者		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	地域の方と「住民のつながり作りの場」の必要性を共有したが、地域にカフェを担う方がなく包括主体で運営することになった。 地域住民自身に企画・運営してもらうにはどうしたらよいか。 意識づくりと地域の担い手の発掘に取り組んだ。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

地域包括支援センターで担うこととなった「住民のつながり作りの場」。
住民が主体的に企画・運営してもらうにはどうしたらよいか、数年にわたり引き継ぐためのプロセスを踏んでいった。
そのプロセスについて発表します。

取り組んだ課題

- ① 住民が「参加」する立場から「運営側」になるために意識を持ってもらうこと。
- ② 担い手の発掘のために社会福祉協議会と共に取り組むこと。

具体的な取り組み

- ① の課題について
 - ・ カフェ開催後に地域の協力者(地域ボランティア・民生委員・地域住民)からの運営に対する交換・企画への意見などを実施。
 - ・ 担い手の勉強会および他地区のサロン運営のかたとの交流会を年2回開催。
 - ・ ボランティア内容の洗い出しとリスト化することで地域ボランティアの得意分野を生かした活躍の場を作った。
- ② の課題について
 - ・ 社会福祉協議会と月1回の情報交換を実施。
 - ・ 社会福祉協議会でのボランティア育成事業を実施、事業の中で実習としてカフェの見学をしてもらい卒業後のボランティアの定着を狙った。
 - ・ 課題が共有できたことで地区の社会福祉協議会が設立された。
 - ・ 地区の社会福祉協議会に地域包括支援センターが出席させてもらうことで地域のつながりの必要性についてPRした。
 - ・ 地区の社会福祉協議会ではコロナ禍で休止せざるを得なかったカフェの代わりにサロン活動を開始することとなった。
 - ・ 今後は地区の社会福祉協議会で開催するサロンのサポートとしての役割に移行した。

活動の成果と評価

「住民のつながり作りの場」の企画・運営を住民の自主組織が担ってくれることとなった。

今後の課題

今回は1地区での取り組みとなっている。
当センターが担当するほかの地区にも地域のつながりづくりの場の必要性について提案していきたい。